# 園だより

2024. 1月

認定こども園　下関短期大学付属第二幼稚園
山口県下関市彦島塩浜町２丁目2-21　☎　083(266)5821

## 架け橋期の教育の充実～幼保小連携・協働～

４年ぶりに行ったもちつきでは、多くの保護者の方にお手伝いにきていただき、ありがとうございました。ほとんどの子が初めてで、日本の伝統文化に触れる貴重な経験ができました。おもちの甘い香りに包まれながら杵でお餅をつく音を聞いていると、年末の風物詩を五感で味わうことができました。コロナ禍を理由にして途絶えさせてはいけないと計画した行事ですが、奮起してやってよかったと心から思いました。

さて、今さくら組の子どもたちが３学期にイベントを計画しているそうです。何かと言うと、「お店屋さんごっこ」。実は、11 月にＰＴＡの皆様にしていただいたお店屋さんごっこがとても楽しく、あこがれていたそうです。さらに続いて先日の角倉小学校１年生との交流活動。「秋あそび」を上手にお世話してくれた１年生に影響され、「自分たちも幼稚園の下級生に何かをして楽しませてあげたい」という気持ちが抑えられなくなりました。

コロナ禍により中断していた幼小の交流活動も、４年ぶりに再開しています。向井小学校だけでなく、角倉小学校からも声が掛かり、既に２回訪問しています。

文部科学省の諮問機関、中央教育審議会が今年２月に取りまとめた答申では、５歳児から小学校１年生までの２年間を「架け橋期」と称し、子どもの生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために最も重要な時期として、幼保小の協働によりこの架け橋期の教育を一層充実させることが必要としています。これはつまり、幼児教育と小学校教育は決して別個のものとしてとらえず、つなげていかなければいけないという考え方であり、幼保小はこれまでの子ども同士の交流活動から、教職員同士の連携・協働という新たなステージを迎えているということです。ちょうどコロナ５類移行のタイミングとも重なり、架け橋期の教育の充実を図る取組が全国的に展開され始めたというわけです。彦島地区は、さらに地域連携も強力です。地域の方にも参入していただいて、より実効性のある持続可能な連携・協働が図れると思います。

現在、園種を問わず、また公立・私立を問わず、すべての園で足並みを揃えて３歳以上の教育を行っています。具体的には、幼児期に育みたい資質・能力として、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の３つを柱に活動を展開しています。また、これらの資質・能力が育まれていった時、幼児期の終わり頃には具体的にどのような姿として現れるかを、文部科学省は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として明確化しました。これについては文部科学省のパンフレットを参照してください。➤

一方、小学校においては、「スタートカリキュラム」を作成し、入学当初、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが円滑に接続されるよう、幼保と連携しながら生活科を中心に、教科を合わせた指導や弾力的な時間割の設定など、工夫した取組をしています。

本園では、「考える、決める、やってみる！」の教育目標のもと、集団生活における主体的・探求的・協同的遊びを通して、子どもの自己決定力、自己解決力等を育んでいます。このたびのさくら組の「お店屋さんごっこ」計画でも、下級生が楽しんでくれるために、どんなお店やゲームにしたらいいか、材料は何にし、どれほどの量がいるか、またどこから調達するか、お金はどうするかなど自分たちでしっかり話し合い、オープンに向けた準備を始め、ポスターやチラシ、看板作りなどにも精を出してくれるものと期待しています。このような活動を通して身に付けた資質・能力が小学校に上がっても大いに発揮できるよう各小学校に働き掛けていきます。　（園長　寺本　明生）